

「西田先生は本当に韓国側が蒸し返さないと信じておられるのか？」

平成 28 年 1 月 12 日

●猫春さんからの質問

1月6日投稿のチャンネル桜のビデオレター拝見しました。正直、感情的にはとても納得できる物ではありませんでしたが、現実的に考えれば、日韓両国にアメリカからの強い圧力があつた事は疑いようがありませんし、地政学上韓国が重要な位置を占めており、日米側に引き戻す必要も理解できません。以上を踏まえて質問ですが、

1. 西田先生は本当に韓国側が蒸し返さないと信じておられるのか？又、蒸し返した時どのような対応を考えておられるのか？
2. 他国がこの問題で日本側に協議を申し込んでいるがどうするのか？
3. この件で苛めにあっている在米邦人は絶望しているが、彼らにはどういった説明をなされるのか？

●西田昌司の答え

この前、民主党の辻元清美議員とぼったり顔を合わせました。辻元さんから日韓合意について尋ねられたので「評価できる」と答えたのですが、彼女も今回の合意については評価していて珍しく意見が一致しました。今回の合意について非常に憤っている方がたくさんいらっしゃるのですが、皆さんが心配しているようなことにはならないと思いますし、日本が韓国に高いハードルを課する合意であったと言えます。

朝鮮半島は大陸と繋がっていますが、その歴史は中国とロシアの脅威にさ

らされるものであり、中国が近づけば中国に従い、ロシアが近づけばロシアに従うといったように中国とロシアの2つの力の間で揺れ動く歴史でした。なんとか解放されたいと願う朝鮮は日本に合邦を希望し、日本にとっても朝鮮半島情勢は安全保障に強く関わる問題でしたので1910年に日韓併合がされましたが、現在でも朝鮮半島情勢が安全保障問題と直結していることに変わりはありません。先日、北朝鮮の水爆実験の報道があり、これを受けて本日（1月8日）に参議院本会議と衆議院本会議で抗議決議を緊急上程し、安倍総理が所信を述べることになっていますが、（北朝鮮の最高指導者の金正恩が何をしでかすかわからないこともあって）朝鮮半島情勢は現在、非常に緊迫感が高まっています。

戦後、自由主義陣営と共産主義陣営の間で冷戦が始まり、1962年のキューバ危機の際は全面核戦争寸前の状況にまで至ったのですが、1950年に自由主義陣営の韓国と共産主義陣営の北朝鮮の間で紛争となり、国境線と化していた38度線を北朝鮮が侵攻し、これに韓国が応戦して朝鮮戦争が勃発しました。マッカーサーの当初の日本占領方針は「日本が二度と刃向わないように徹底的に懲らしめる」でしたが、朝鮮戦争によって真の敵は日本ではなく共産勢力だということに気付かされ、朝鮮半島情勢が世界の安全保障を揺るがすという現実と直面しました。1951年にアメリカに戻ったマッカーサーは上院軍事外交合同委員会の席上で、「日本があつた戦争に飛び込んでいった動機は、安全保障の必要に迫られたため、侵略ではなかった」と言明するまでに至ったのです。

現在も中国とロシアは軍事大国ですが、特に中国は韓国を巻き込んで中韓によって日米に対抗する外交軸を作らんというような状況になってきており、そうすると日本の安全保障が徹底的に揺さぶられかねません。韓国は経済状況が良くありませんし、安全保障が危険な状況になってきていることを感じ取っているからこそ韓国側から大統領自らがもう蒸し返さないと表明して日本に近寄ってきているわけで、安倍総理と朴槿恵大統領は危機意識を共有しているのでしょう。このような状況下で、安倍総理は今回ぎりぎりの選択をされたということを我々は理解しなければなりません。

そもそもいわゆる従軍慰安婦問題は朝日新聞の虚報から始まった話ですし、昨年には朝日新聞自身が捏造であったことを認めており、今ではそれが嘘であることがはっきりとしています。かつては民主党の岡崎トミ子議員が韓国への海外視察の際（2003年）に、元慰安婦と称する関係者が行うデモに国会議員の立場として参加するというとんでもない状況でしたが、もうそのような話にはなりません。自民党は昨年「歴史を学び未来を考える本部」を設置しましたが、同本部ではいわゆる従軍慰安婦問題の真実を国民と海外に発信し続ける所存でありますし、またこのような真実の追及はジャーナリズムの本来の仕事ですからジャーナリズムにも期待したいところです。

今回の合意は「日本軍による慰安婦の強制連行」を認めたものではありませんし、そのような合意など出来るはずもありません。真実を明らかにする努力を放棄するものでは決してありませんし、これからもしっかりとやっていくことをここに宣言します。

反訳：ウッキーさん

Copyright：週刊西田 <http://www.shukannishida.jp>